



酒々井町【千葉県】 歴史文化基本構想

- 策定年月：平成28年3月 ■ 人口：20,921人 ■ 面積：19km²
- 担当課：酒々井町教育委員会生涯学習課（平成30年3月現在）



当町では直面する諸課題の解決を目指し、持続可能なまちづくりを一步步づつ着実に進め、住民生活に身近で、小さな町だからこそできる、小回りの利く施策に取り組み、高品質でおしゃれなまちづくりを進めている。その中で、町の地域資源である歴史と文化を見直し、文化財の保護と利活用を通じて住民参加による地域社会の活性化と協働のまちづくりを推進するための基本的な指針として策定した。

5 歴史文化を表す つのキーワード

水、千葉氏、戦国の城、
宿場町、野馬牧

課題

- ・失われていく文化財の保護措置
- ・継承者不足
- ・保存活用に係る体制及び助成制度の整備

保存活用方針

- ・保存活用の体制整備
- ・地域性やテーマを組み合わせた総合的な活用
- ・まちづくりへの活用

保存活用のための取り組み

酒々井ふるさとガイドの会の活動

平成20年度より活動する酒々井ふるさとガイドの会が、国史跡本佐倉城跡や旧酒々井宿を中心に、町の歴史や自然を紹介するためのボランティアガイドを実施。また町主催の見学会やウォーキング事業等とも協働して、積極的なガイド活動を行っている。



酒の井の碑広場整備事業

酒々井町の町名由来となる「酒の井の碑」とその伝承を守り後世に伝えていくため、酒の井の碑及びその周辺について「酒の井の碑広場管理委員会」による環境整備を進め、町の文化と景観を育み、町民の憩いの広場としている。



「飯泉の泉」の復元保存活動

飯積（いいずみ）の地名の由来となる湧水池「飯泉の泉」について、周辺開発の進む飯積地区が市街化して大きく変貌してゆく中で、残された故郷の風景を癒しの里として「泉の里整備計画友の会」が整備を実施し、コミュニケーションづくりの場としての公園整備を行っている。



青少年おもてなしカレッジ研修

小学校4年生～中学校3年生を対象に、酒々井町の自然や歴史の素晴らしさを町民の皆様や酒々井町を訪れる方々に伝えることのできる青少年のガイドを養成する講座。仲間と協力しておもてなしの心を身につけ、郷土を愛する心を持ったガイドを育てている。





関連文化財群



国史跡本佐倉城跡は関東有数の武士である千葉氏の戦国時代の本拠地であった。これにまつわる100余年にわたる歴史は、千葉県の歴史に欠くことのできない物語と文化財を酒々井町全域と千葉県北部に残している。この歴史には、城郭、寺院、寺社、野馬牧など、複数の要素が内在しており、様々な派生ストーリーを設定可能。

ストーリー

- ① 関東八館の筆頭
- ② 享徳の大乱と本佐倉への築城
- ③ 文武の名将千葉勝胤
- ④ 千葉氏の掉尾を飾る名将胤富
- ⑤ 千葉氏の滅亡
- ⑥ 徳川家康と本佐倉城



策定後の成果（見込まれる効果）

① まちの顔づくり推進事業

江戸時代に栄えた旧酒々井宿を「酒々井町の顔」として町並みの保存・整備を行い、修景整備や歴史的景観に配慮した歩行者空間を設けるなど、観光資源として活用し、交流人口の増加を図るため町事業として進める。



② 登録有形文化財（建造物）の増加

今後の保存・整備・活用を図るため、町登録有形文化財（建造物）として「筋吉五郎家」（店舗兼住宅等3件）が、国登録有形文化財（建造物）として「飯沼本家」（主屋、離れ屋等6件）が追加登録された。



③ ふるさとガイドの会の会員増加

観光客の増加や多様化する観光客のニーズに対応するため、平成28年度に「酒々井ふるさとガイドの会」が主催となり「ふるさとガイド養成講座」を開講し、会員の増加を図っている。それにより、ふるさとガイドの会の会員は、これまでの12名（うち女性1名）から24名（うち女性4名）に増加し、ガイド活動が活性化している。

